

論文

絵本におけるオノマトペの分析

The Analysis of Onomatopoeia in Picture Books

竹内文緒 (芸術学園幼稚園)

玉瀬友美 (高知大学教育学部)

TAKEUCHI Fumio¹ and TAMASE Yumi²

1 Geijutu-gakuen Kindergarten, certified Centers for Early Childhood Education and Care

2 Faculty of Education, Kochi University

ABSTRACT

The purpose of this study was to identify the characteristics of onomatopoeia used in picture books. The onomatopoeia used in 75 picture books widely read by children was classified into six categories: visual, tactile, auditory, action, internal, and gustatory. As a result, auditory, gustatory, and tactile onomatopoeia were mostly used in picture books for children aged 0 to 1 year, while visual onomatopoeia and action/internal onomatopoeia were mostly used in picture books for children aged 3 years and older who can integrate the story. In addition, action and internal onomatopoeia were often used in picture books that depicted the actions and internal states of characters. The results of this study revealed that onomatopoeia in picture books is used in different ways depending on how the children can understand the books.

I. 問題と目的

乳幼児が言葉を獲得する際に影響を及ぼす言語的環境には、身近な大人からの語りかけ、絵本、紙芝居、歌などがある。その中でも乳幼児自らが手にすることができ、くり返し楽しめるものの一つが絵本だろう。絵本には絵と言葉があり、乳幼児が初めて聞く言葉の意味も、絵を見ながら理解することができる。幼稚園教育要領解説（文部科学省,2018）には「言葉はただ単に、意味や内容を伝えるだけのものではない。声として発せられた音声の響きやリズムには、音としての楽しさや美しさがある。例えば、『ゴロゴロ ゴロゴロ』というように言葉の音を繰り返すリズムの楽しさや『ウントコショ ドッコイショ』というような言葉の音の響きの楽しさなどもある。」と記されている。この「ゴロゴロ」のような擬音語だけでなく、「ピカピカ」や「キラキラ」のような擬態語も同様に「音のリズムの楽しさ」を味わえる言葉であろう。このような擬音語・擬態語を含むオノマトペは、日本の絵本において多用されている（深田,2013; 今井,2017）。以下、本研究では、オノマトペという用語を、擬声語、擬音語、擬態語、擬情語を包括したものと用いる（田中,1978; 鈴木,1984; 田守,1998; 今井,2017）。

絵本の中で使用されているオノマトペを分析した研究として、黒田(2015)は、対象年齢とラ行音に焦点をあてて幼児向け絵本におけるオノマトペの特徴を分析し、発達の獲得されることが遅いとされるラ行のオノマトペは、絵本の対象年齢が上がるごとに増加することを示した。また、中本(2013)は、対象年齢0歳から6歳までの絵本を対象とし、絵本のジャンル・対象年齢によって使用されるオノマトペの傾向の違いを調査している。その結果、2歳以下を対象年齢にした絵本にオノマトペの出現率が著しく高いこと、さらに、2歳児を対象にした絵本では擬音語が多くオノマトペ単体で使用されていることが多いが、3歳児を対象にした絵本では擬態語が多く副詞的に使われていることを報告している。このように、絵本に出現するオノマトペに関する先行研究では、特定の音や、擬音語と擬態語の区別に着目していると言える。

ところで、言葉と意味の結びつきは基本的に恣意的であるが、オノマトペは、音自体がある特定のイメージや感覚を引き起こす音象徴という性質をもっている（浅野・渡邊,2014）。たとえば、「ふわふわ」というオノマトペを聞いたとき、その意味がわからなくても、「ふ」と「わ」という音もつイメージから、柔らかい触感をもつ何かを意味する言葉であるととらえることができよう。その言葉の意味はわからなくても、音を手掛かりにしてそれが指す意味を感覚的に推測することができるのである。実際に、オノマトペには五感に関する表現が多いことが指摘されており（井上,2013）、山梨(1988)は、擬音語を擬態語の一種と位置

づけ、擬音語は五感の1つである聴覚による外部世界の認知の様態を叙述するものであると述べ、聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚を表すオノマトペがあることを示している。

福田・芋阪(1992)は、オノマトペがもつこのような特性から、感覚の種類などによってオノマトペを分類し、3歳6か月の女児の自発的発話にみられるオノマトペの傾向を分析している。その結果、「カアカア」などの聴覚刺激の表現、「ピカッ」などの視覚の表現、「ボツン」などの触覚の表現、「ピリッ」などの味覚の表現、「ノッシノッシ」などの動作の表現、「ゴゴゴ」などの体内の感覚の表現の6つのカテゴリーのうち、動作を指すオノマトペが多く出現しており、次いで聴覚、視覚、触覚の表現であったことを報告している。また、菅(1999)は、1名の女児の発話を長期的に観察し、出現したオノマトペを「音や鳴き声、音声をまねて表現」「動作を表現」「事物のようすを表現」「動作に伴ったかけ声のような表現」に分類した。その結果、2歳7か月時は聴覚にかかわる表現が多く、擬音語が擬態語よりも使われやすく、発話されたオノマトペの半数以上は自分の動作と一体となった語であった。そして、3歳6か月時にはオノマトペの数は3倍になっており、動作と一体となった語が半数を占め、次いで聴覚、視覚、触覚の表現がみられたことを報告している。

一方、養育者と子どものコミュニケーションに現れるオノマトペに関する研究では、養育者による子どもへの語りかけの中に含まれるオノマトペの頻度は対成人発話に含まれるオノマトペの頻度よりも高く、2歳児の養育者は3歳児の養育者よりも子どもへの語りかけに含まれるオノマトペが多いことや、オノマトペの使い方に関しても、2歳児に対しては統語構造に組み込まれない間投詞的は使い方（手をたたきながら「パンパン」）が多く、3歳児になると統語的關係に組み込まれた副詞的な使い方（「パンパンって手をたたいているよ」）が多いという発達段階による違いがみられたことが報告されている（佐治・今井,2013）。つまり、養育者は子どもに対して単にオノマトペを多用するだけでなく、現実の音や動作に対応した使い方から、文の中に統語的に組み込んだ使い方へと、その音と意味のつながりの強さを調整しているのである。

子どもの発話を分析した研究および養育者による子どもへの語りかけを分析した研究から、子ども自身の発話においても養育者からの語りかけにおいても、子どもの発達段階によって、出現するオノマトペ表現の違いがみられることがわかる。年少であるほど現実の音を聞いた感覚や動作に対応したオノマトペを子どもは多く表現し、養育者においても語りかける子どもが年少であるほど同様のオノマトペを使用しているといえよう。

子ども向けの絵本の中で使用されている言葉は、それぞ

れの発達段階において獲得されている言語的知識を反映したものであり、子どもたちによって表出されることが多く、理解されやすいものであることが推察される。それでは、対象とする子どもの発達段階によって、絵本の中のオノマトペ表現に違いがみられるのであろうか。本研究では子どもに広く読まれている絵本に出現するオノマトペを抽出し、オノマトペが表現する身体の動きや感覚をもとに分類することを通して、子どもを対象とした絵本の中で使用されているオノマトペの特徴を明らかにすることを目的とする。

II. 研究の方法

(調査対象)

本研究では、できるだけ多くの子どもが接している絵本を調査するため、別冊太陽 2006 年 144 号に掲載されている「最近三年間のベストセラー絵本」と「読み継がれるロングセラー絵本」及び、紀伊国屋書店 2015 年上半期ベストセラー絵本に掲載されている絵本の中から重複しているものを除いた合計 75 冊の絵本を対象とした(資料 1)。

(絵本の対象年齢)

絵本に記載された年齢および出版社が開設するホームページを参照し、そこに記された対象年齢の開始時期をもとに絵本の対象年齢を分類した。対象年齢の記載がないものや「0歳の赤ちゃんから大人まで」など対象年齢の幅が広く記載されたものは、「特定なし」と分類した。対象年齢として「幼児から」と記載されたものは「3歳から」、「ひらがなを覚えたての幼児から」と記載されたものは「5歳から」、「小学校」と記載されたものは「6歳から」に分類した。

(分析方法)

「擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典」(小野, 2007)と「擬音語・擬態語辞典」(天沼, 1974)を基準として調査対象の絵本に出現する全てのオノマトペを抽出した。そして、文脈を考慮し、オノマトペで表現しようとし

表 1 分類基準とオノマトペの例

カテゴリー	分類基準	例
聴覚オノマトペ	聞こえた音の感覚を表現したもの	カタカタ、カンカン、ジャージャー
視覚オノマトペ	見たものの様子や状態を表現したもの	キラキラ、ピカッ、チカチカ
触覚オノマトペ	触った感覚を表現したもの	すべすべ、つるつる、ふわふわ
味覚オノマトペ	口に入れた時の味や香りを表現したもの	ピリッ、トロトロ
動作オノマトペ	身体が動いている様子を表現したもの	きょろきょろ、のっしのっし、さっさ
内的オノマトペ	感情や気持ちなど身体内部の感覚を表現したもの	おそろおそろ、おずおず、ドキン

ている身体の感覚や動きに基づいて、福田・荻阪(1992)を参考にして、視覚、触覚、聴覚、動作、内的、味覚の6つに分類した。表 1 に、分類基準とオノマトペの例を示す。分類は 2 名が独立に行い、評定の一致率は 70.54%であった。不一致の場合には、協議により分類を決定した。

III. 結果と考察

表 2 は、絵本に出現するオノマトペ数を対象年齢別に示したものである。1 冊あたりのオノマトペ数は、「特定なし」を除くと、「7歳から」が最も多く、「0歳から」、「1歳から」を対象とした絵本に関して出現数は少なかった。このような結果は、対象年齢が高くなると絵本に含まれる文章量が多くなることに関連していると考えられる。オノマトペ数を身体の動きおよび感覚別にみると、聴覚と動作を表すオノマトペが多かった。このような結果は、子どもの発話を分析した先行研究(福田・荻阪, 1992; 菅, 1999)と一致するものであった。

表 2 絵本に出現するオノマトペ数

対象年齢	冊数	聴覚	視覚	触覚	味覚	動作	内的	合計	絵本1冊あたりの平均
0歳から	6	28	8	5	0	4	0	45	7.5
1歳から	3	5	11	0	0	2	0	18	6.0
2歳から	5	75	10	0	0	18	5	108	21.6
3歳から	21	99	42	16	0	70	38	265	12.6
4歳から	6	20	28	1	0	20	10	79	13.2
5歳から	2	22	2	3	2	7	12	48	24.0
6歳から	4	11	7	0	0	17	3	38	9.5
7歳から	1	9	9	2	0	10	2	32	32.0
8歳から	3	4	9	0	0	11	9	33	11.0
11歳から	1	3	0	0	0	4	0	7	7.0
特定なし	23	146	63	4	0	94	51	358	15.6
合計	75	422	189	31	2	257	130	1031	

図 1 は、対象児を「乳児(0~2歳)」「幼児(3~5歳)」「6歳児以降」「特定なし」に分け、それぞれの年齢段階向けの絵本に出現したオノマトペの割合をまとめたものである。対象年齢が低いほど、聴覚のオノマトペが出現する割合が高く、動作のオノマトペが出現する割合が低い。また、内的オノマトペが 0歳から 2歳を対象とした絵本に出現する割合は低かった。

次に、このような絵本におけるオノマトペのカテゴリー別出現傾向を分析するために、動作および感覚に関する 6 つカテゴリーを変数とした主成分分析を行った。表 3 に、主成分負荷量と寄与率、図 2 に、3 つの主成分の分布を示す。

表 3 から、第 1 主成分については、聴覚オノマトペ、味覚オノマトペ、触覚オノマトペの主成分負荷量が他の主成分負荷量よりも高いことがわかる。これらのオノマトペに共通しているのは、相対的に原初的な感覚を表すオノマトペであるという点である。

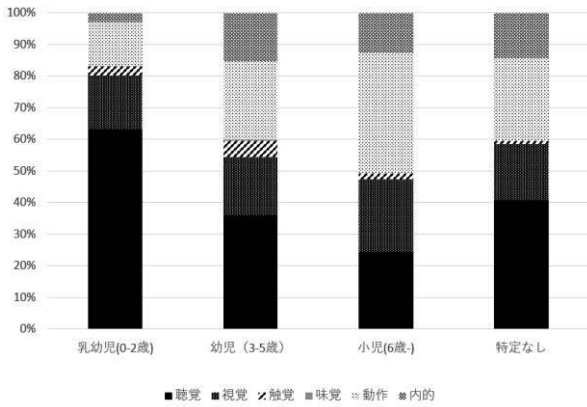


図1 対象年齢別のオノマトペの出現割合

表3 主成分負荷量と寄与率

	第1主成分	第2主成分	第3主成分
聴覚オノマトペ	0.635	-0.605	-0.300
味覚オノマトペ	0.619	0.381	0.433
触覚オノマトペ	0.615	0.467	0.338
視覚オノマトペ	-0.351	0.738	-0.459
動作オノマトペ	-0.465	-0.128	0.552
内的オノマトペ	-0.349	-0.174	0.544
寄与率	27.097	22.032	20.063
累積寄与率	27.097	49.129	69.192

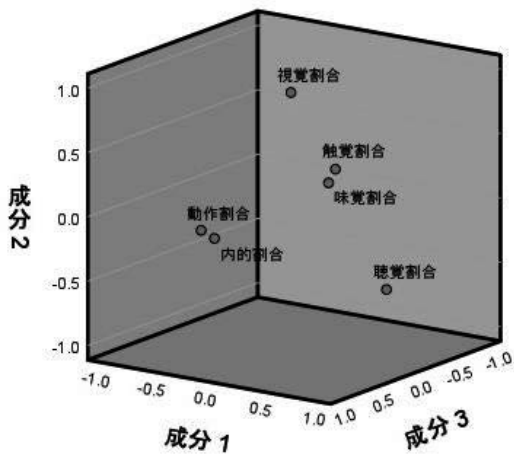


図2 3主成分の分布図

表4 第1主成分の値が高い絵本と低い絵本

対象年齢	絵本の題名	主成分1
5	きょうのおやつは	5.286
0	しろくまちゃんのほっとけーき	2.120
3	ぐりとぐら	1.920
3	そらまめくんのベッド	1.496
0	いない いない ばあ	1.378
0	いないいないばあ あそび	1.378
特定なし	しゃっくりがいこつ	1.378
1	ねないこだれだ	1.378
3	ちょっとだけ	-1.248
8	せかいでいちばんつよい国	-1.206
特定なし	マドレーヌのメルシーブック	-1.199
3	てん	-1.180
特定なし	だるまさんと	-1.172
特定なし	ぶーちゃんとおにいちゃん	-1.172
特定なし	あおくんときいろちゃん	-1.007

表4は、第1主成分の値が高い絵本と低い絵本をあげたものである。第1主成分の値が高い絵本をみると、「いない いない ばあ」「しゃっくりがいこつ」「ねないこだれだ」は、「ばあ」「ヒック」「ボンボン」など聴覚のオノマトペのみ出現する絵本であった。また、触覚のオノマトペは「きょうのおやつは」「しろくまちゃんのほっとけーき」「ぐりとぐら」「そらまめくんのベッド」において「とろとろ」「ふわふわ」「どろどろ」「ほかほか」「つるつる」などがみられた。味覚のオノマトペは、「きょうのおやつは」においてのみ出現していたため、値が高くなっている。なお、以下に示す第2、第3主成分についても値が高くなっているのは同様の理由によるものと考えられる。

第1主成分の値が高い絵本の対象年齢を見ると、0~1歳の乳児を対象にした絵本が4冊あるのに対して、第1主成分の値が低い絵本を見ると、乳児を対象年齢とした絵本はなく、全て3歳以上を対象としたものや全年齢向けの絵本であった。聴覚、味覚および触覚は出生前にすでに機能的に成熟した状態にある感覚系であり (Vauclair,J.,2012)、乳幼児が実感をもって理解しやすいことから、乳児を対象にした絵本にはこれらのオノマトペが多く使われていると考えられる。

次に、第2主成分については、様子や状態など、見たものを表現する視覚オノマトペの主成分負荷量が他の主成分負荷量よりも高かった (表3)。

表5は、第2主成分の値が高い絵本と低い絵本を示したものである。第2主成分の値が高い絵本は対象年齢3歳以上の絵本が多く、0~1歳児向けのものはみられない。ま

表5 第2主成分の値が高い絵本と低い絵本

対象年齢	絵本の題名	主成分2
5	きょうのおやつは	3.260
3	おおきなかぶ	2.131
3	ねずみくんのチョッキ	2.131
3	ぼちぼちいこか	2.131
3	ぐりとぐら	1.775
3	おひさまパン	1.699
2	ちびゴリラのちびちび	1.493
特定なし	恐竜時代	1.435
0	いない いない ばあ	-1.550
0	いないいないばあ あそび	-1.550
特定なし	しゃっくりがいこつ	-1.550
1	ねないこだれだ	-1.550
特定なし	だるまさんが	-1.185
2	わにわにのおふる	-1.116
2	しんかんせんでビューン	-1.112
3	チリとチリリ	-1.093

表6 第3主成分の値が高い絵本と低い絵本

対象年齢	絵本の題名	主成分3
5	きょうのおやつは	3.698
3	ちょっとだけ	2.034
特定なし	マドレーヌのメルシーブック	1.735
3	あいつもともだち	1.717
8	せかいでいちばんつよい国	1.619
特定なし	だるまさんと	1.564
特定なし	ぶーちゃんとおにいちゃん	1.564
3	てん	1.462
3	おおきなかぶ	-1.869
3	ねずみくんのチョッキ	-1.869
3	ぼちぼちいこか	-1.869
3	わたしのワンピース	-1.406
1	もこ もこもこ	-1.329
0	いない いない ばあ	-1.252
0	いないいないばあ あそび	-1.252
特定なし	しゃっくりがいこつ	-1.252
1	ねないこだれだ	-1.252

た、「おおきなかぶ」「ねずみくんのチョッキ」「ぼちぼちいこか」「ぐりとぐら」「おひさまパン」「ちびゴリラのちびちび」など、くりかえし構造を含んだ起承転結がある物語絵本が多く、「つやつやで だんりょくがあり」「ひらひら

とんでる」などの視覚オノマトペを使って物語の情景が描写されていた。一方、第2主成分の値が低い絵本は、0～2歳児向けの絵本が多い。「いない いない ばあ」「いない いないばあ あそび」「だるまさんが」「ねないこだれだ」は、背景はほとんど描かれておらず、物語の情景を伝えるというよりも、子どもが登場人物に注目し読み手と絵本を介して交流するように構成された絵本であった。

内田(1997)は、物語理解や産出を支える認知機能をまとめ、大人の誘導や援助があれば、バラバラの事象を言葉の上で関係づけ、統合することのできる変化は3歳台から生じることを報告している。このことから、3歳以上を対象とした絵本には、物語の中で描かれている情景をより具体的にイメージするための手がかりとなる視覚オノマトペが多く使われているといえる。

最後に、第3主成分については、「動作」「内的」の主成分負荷量が他の主成分負荷量よりも高い(表3)。これらのオノマトペは身体の動きや内部感覚を表すものである。

表6は、第3主成分の値が高い絵本と低い絵本を示したものである。第3主成分の値が低い絵本には0～1歳を対象にしたものが多くみられるのに対して、第3主成分の値が高い絵本は全て3歳以上の幼児を対象にした絵本であった。「ちょっとだけ」は赤ちゃんが生まれた主人公の母親に甘えたい気持ち、寂しさや自立心、母親に受け入れられた安心感が描かれており、「マドレーヌのメルシーブック」は、他者を思いやり、相手の気持ちを明るくするためにとるべき行動や言葉かけが描かれている。また、「あいつもともだち」では、冬ごもりをするへびに声をかけられなかったキツネが、別れの挨拶をしなかったことを後悔し、ずっとへびのことを思いながら冬を過ごし、春になって、キツネの気持ちを理解していたオオカミと一緒にへびに会いに行く物語である。「せかいでいちばんつよい国」は、世界中を征服した大きな国の大統領と兵隊たちが、たった一つ征服されていない小さな国に行きそこで暮らし、人々と仲良くなり、小さな国の素晴らしい文化を大きな国の人々に伝える物語である。「てん」は、絵を描くことに自信がなかった主人公が先生に自分の表現を認められたことをきっかけに、自分の思いを表現するようになり、「自分は何もできない」という年少の男の子を勇気づける物語である。これらの絵本では、物語の中で描かれている登場人物の行動や気持ちを聞き手がより具体的にイメージできるよう、動作・内的オノマトペが使用されていると考えられる。

本研究の結果から、子どもによく読まれている絵本に出現するオノマトペには3つの特徴があることが示された。すなわち、聴覚・味覚・触覚といった発達的に比較的早期に機能的成熟がみられる感覚を表現するオノマトペ、絵本に描写された情景を視覚的に表現するオノマトペ、絵本に登場する人物の動きや内的状態を表現するオノマトペであ

った。そして、聴覚・味覚・触覚オノマトペは、0～1歳児を対象とした絵本に用いられることが多く、視覚オノマトペおよび動作・内的オノマトペは、物語を統合できるようになる3歳児以上を対象とした絵本に用いられることが多く、動作・内的オノマトペは、登場人物の行動や内的状態が描かれている絵本において用いられていることが多かった。このように、オノマトペは、それぞれの年齢において、子どもが絵本をどのように理解できるかに応じて使い分けられているといえよう。

言音と参照対象が類似的・非偶然的関係を持つ性質は類像性と呼ばれる(佐治・今井,2013)。たとえば、「ボタン」などの擬音語は、音と意味の関係が類似的であり類像性が高いのに対して、「ドキドキ」などの擬情語は類像性が低い。日本語オノマトペにおいては、聴覚経験を表す擬音語、擬態語、擬情語の順に類像性が低くなることが指摘されており(秋田,2013)、養育者は、子どもの年齢に応じて類像性が高い使い方から低い使い方へと音と意味のつながりの強さを調整してオノマトペを使用していることが明らかにされている(佐治・今井,2013)。本研究の結果から、絵本の中に出現するオノマトペにおいても、類像性の調節が行われていることが示された。

オノマトペは「極めて言葉らしくない言葉」であると言われ(宇野・鍛冶・喜連川,2013)、喜多(2013)は、オノマトペの意味は「イメージ的」であり、ある出来事や経験に関連する情報が統合的に集約されており、意味と形式との関係が恣意的でなく、映像的に意味を表していることを指摘している。また、深田(2013)は、絵本の中のオノマトペは、絵と同様に、子どもが絵本の世界を自身の感性的ないし身体的な経験と関連づけながら実感を持って理解していくための手段であると述べている。笹本(2001)も、絵本において描かれている状況を類似再現的に示すという点でオノマトペは絵と同じ働きをするとしながらも、その一方で、オノマトペは絵に置き換えることができない言葉であると述べ、絵本表現の中でのオノマトペが果たす非絵画的な機能として①音声や声などの聴覚によってとらえられる現象の表現、②作中人物の感情や状況のはらむ雰囲気など情緒的内容の表現、③人の動作や物の変容など、運動・時間に関する内容の表現をあげている。

このように、絵本におけるオノマトペは絵と同様に言語的知識が少ない子どもたちが言葉の意味を具体的かつイメージ的に理解するための、大きな手掛かりとなるものである。しかし、それだけでなく、静止した絵だけでは十分に表現することが難しいであろう感覚の立ち上がりの瞬間、登場人物の動き、および気持ちの揺れを表現する手立てとして機能しているといえよう。

幼稚園教育要領の領域「言葉」においては「言葉に対する感覚を豊かに」することがねらいの1つとして示されて

いる(文部科学省,2018)。この言葉の感覚とは、言葉の響きやリズムに敏感になることを指している(無藤,2017)。そして、そのようなねらいを達成するために教師が指導し、幼児が身に付けていくことが望まれる内容の(9)には「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことが明記されている。

オノマトペは、リズムの要素をもった「子どもにとって快い響き」であり(古市,2014)、絵本の中に出現するオノマトペを読み手と聞き手が共に楽しむことは幼児の言葉に対する感覚を豊かに育むであろう。しかし、それだけでなく、絵本の中のオノマトペは、絵と同様にイメージの手掛かりを与えるものであり、幼児が絵本の世界を実感をもって理解するための有用な手がかりとなるものである。オノマトペが言葉と指示対象との結びつきを強め、乳幼児の語意学習を促すものであることは、これまでの研究において報告されている(Imai,Kita,Nagumo,& Okada,2008)。保育者あるいは養育者は、オノマトペがもつこのような特徴を知り、絵本の読み聞かせ場面においてはオノマトペの音のリズムを共に楽しみながら、幼児における実感を伴った言葉の意味の世界を広げる支援をすることが重要であろう。

引用文献

- 秋田喜美 2013 オノマトペ・音象徴の研究史. 篠原和子・宇野良子(編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 333-364.
- 天沼寧 1974 擬音語・擬態語辞典. 東京堂出版.
- 浅野倫子・渡邊淳司 2014 知覚と言語. 今井むつみ・佐治一郎(編). コミュニケーションの認知科学1 言語と身体性. 岩波書店. 63-91.
- 深田智 2013 絵本の中のオノマトペ. 篠原和子・宇野良子(編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 183.
- 福田香苗・荻阪直行 1992 擬音語・擬態語の認知(16)—K児の3歳6か月時の観察記録より—. 日本心理学会第56回大会発表論文集. 814.
- 古市久子 2014 こどもの動きを引き出すオノマトペ絵本. 東邦学誌, 43, 2, 87-104.
- 今井むつみ 2017 オノマトペはことばの発達の役にたつの? . 窪菌晴夫(編). オノマトペの謎—ピカチュウからモフモフまで—. 岩波書店. 103-120.
- Imai,M.,Kita,S.,Nagumo,M.&Okada,H. 2008 Sound Symbolism Facilitates Early Verb Learning.Cognition. 109, 1, 54-65.
- 井上加寿子 2013 オノマトペの多義性と創造性. 篠原和子・宇野良子(編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 203-216.

- 喜多壮太郎 2013 擬音語・擬態語と自発的身振り. 篠原和子・宇野良子 (編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 79-84.
- 黒田彩円 2015 幼児向け絵本におけるオノマトペの特徴: 対象年齢とラ行音. 玉藻, 49, 1-10.
- 文部科学省 2018 幼稚園教育要領.
- 文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説. フレーベル館. 221.
- 無藤隆 2017 幼稚園教育要領. 無藤隆・汐見稔幸・砂上史子 (著). 3法令ガイドブック. フレーベル館. 53.
- 中本彰彦 2013 絵本におけるオノマトペの研究. 修士論文. 鳴門教育大学. 徳島
- 小野正弘 2007 擬音語・擬態語 4500. 日本語オノマトペ辞典. 小学館.
- 佐治伸郎・今井むつみ 2013 語彙習得における類像性の効果の検討—親の発話と子どもの理解の観点から—. 篠原和子・宇野良子 (編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 151-166.
- 笹本純 2001 絵本の方法—絵本表現の仕組み. 中川素子・今井良朗・笹本純 (著). 絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき—. 日本エディタースクール出版部. 71-154.
- 菅真佐子 1999 擬音語・擬態語の発達. 荻阪直行 (編著). 感性のこぼれを研究する—擬音語・擬態語に読む心のありか. 新曜社. 135-153.
- 鈴木雅子 1984 擬声語・擬音語・類態語. 鈴木一彦・林巨樹 (編). 研究資料日本文法④修飾句独立句編. 明治書院. 162.
- 田守育啓 1998 日本語オノマトペ—多様な音と様態の表現—. 日本音響学会誌, 54, 3, 215-222.
- 田中章夫 1978 国語語彙論. 明治書院. 113.
- 内田伸子 1997 言葉の獲得. 高杉自子・岩崎婉子 (編著). 演習保育講座9 保育内容言葉. 光生館. 29-64.
- 宇野良子・鍛冶伸裕・喜連川優 2013 ウェブコーパスの広がりから現れるオノマトペの2つの境界. 篠原和子・宇野良子 (編). オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—. ひつじ書房. 117.
- Vauclair, J. 2012 乳幼児の発達—運動・知覚・認知— (明和政子監訳 鈴木光太郎訳). 新曜社. 52.
(Vauclair, J. (2004). *Développement du Jeune Enfant - Motricité, Perception, Cognition*. Éditions Belin-Paris.)
- 山梨正明 1988 比喩と理解. 東京大学出版会. 80-89.

資料1 対象となった絵本

タイトル	著者	出版社	初版	対象年齢	オノマトペ 数
100万回生きたねこ	佐野洋子/著	講談社	1977	特定なし	7
あいつともだち	内田麟太郎/著、降矢なな/絵	偕成社	2004	3歳～	18
あおくときいろちゃん	レオレオニ/著、藤田圭雄/訳	至光社	1967	特定なし	4
ありがとうのえほん	フランソワーズセニョーボ/著、なかがわちひろ/訳	偕成社	2005	3歳～	8
いない いない ばあ	松谷みよ子/文、瀬川康男/絵	童心社	1967	0・1歳～	2
いないいないばあ あそび	きむらゆういち/著	偕成社	1988	0歳～	16
うずらちゃんのかくれんぼ	きもとともこ/著	福音館書店	1994	2歳～	6
うみの100かいだてのいえ	いわいとしお/著	偕成社	2014	3歳～	11
うんちしたのはだれよ!	ヴェルナーホルツヴァルト/著、ヴォルフエールブルッフ/絵、関口裕昭/訳	偕成社	1993	3歳～	17
うんちっち	ステファニーブレイク/著、ふしみみさを/訳	あすなろ書房	2011	小学校低学年	4
おおきなかぶ	ATルストイ/再話、佐藤忠良/絵、内田莉莎子/訳	福音館書店	1966	3歳～	3
おおきな木	シェルシルヴァスタイン/著、村上春樹/訳	あすなろ書房	2010	小学校低学年～	4
おくりものはナンモナイ	パトリックマクドネル/著、谷川俊太郎/訳	あすなろ書房	2005	小学校高学年	7
おじいちゃんがおぼけになったわけ	キムフォックスオーカソン/著、エヴァエリクソン/絵、菱木晃子/訳	あすなろ書房	2005	幼児	24
おじいちゃんのごらくごらく	西本鶏介/著、長谷川義史/絵	鈴木出版	2006	4-5歳児	4
おひさまパン	エリサクレヴェン/著、江国香織/訳	金の星社	2003	幼児から	17
おまえうまそうだな	宮西達也/著	ポプラ社	2003	3～5歳	38
かいじゅうたちのいるところ	モーリスセンダック/著、神宮輝夫/訳	富山房	1975	特定なし	14
からすのパンやさん	かこさとし/著	偕成社	1973	4歳～	20
きょうのおやつは かがみのえほん	わたなべちなつ/著	福音館書店	2014	5・6歳～	10
ぐりとぐら	中川李枝子/著、大村百合子/絵	福音館書店	1963	3歳～	6
こんたのおつかい	田中友佳子/著	徳間書店	2004	特定なし	6
こんにちはおてがみです	中川 李枝子/著、筒井 頼子/著、富安陽子/著	福音館書店	2006	読んでおけるなら3才から 自分で読むなら小学校初級むき	15
しましまぐるぐる	かしわらあきお/著	学研	2009	0-2歳	13
しゃつくりがいこつ	マージェリーカイラー/著、S.D.シンドラー/絵、黒宮純子/訳	セーラー出版	2004	特定なし	76
しろくまちゃんのほっとけーき	もりひさし/著、わだよしおみ/著、わかやまけん/絵	こぐま社	1972	0～3歳	14
しろくまのパンツ	tupera tupera/著	ブロンズ新社	2012	特定なし	4
しんかんせんでビューン	視覚デザイン研究所/著、くにすえたくし/絵	視覚デザイン研究所	2014	2歳～	85
スイミー	レオレオニ/著、谷川俊太郎/訳	好学社	1969	特定なし	2
すてきな三にんぐみ	トミーアングラー/著、いまえよしも/訳	偕成社	1969	3歳～	10
せかいでいちばんつよい国	デビッドマッキー/著、なかがわちひろ/訳	光村教育図書	2005	小学校中学年から	6
そらまめくんのベッド	なかやみわ/著	福音館書店	1999	3歳～	22
だるまさんが	かがくいひろし/著	ブロンズ新社	2008	0歳の赤ちゃんから大人まで	5
だるまさんと	かがくいひろし/著	ブロンズ新社	2008	0歳の赤ちゃんから大人まで	3
ちいさいおうち	バージニアリーパートン ふんとえ、石井桃子 やく	岩波書店	1965	4・5歳～	24
ちびくろさんぼ	ヘレンバンナーマン/著、フランコピアス/絵、光吉夏弥/訳	瑞雲舎	2005	特定なし	13
ちびゴリラのちびちび	ルースボーンスタイン/著、岩田みみ/訳	ほるぷ出版	1978	2・3歳～	4
ちよつだけ	瀧村有子/著、鈴木永子/絵	福音館書店	2007	3歳～	2

資料1 対象となった絵本(つづき)

題名	作者	出版社	出版年	対象年齢	オノマトペ 数
チリとチリ	どいかや/著	アリス館	2003	3・4歳～	13
てぶくろ	エウゲーニーMラチョフ/ 絵、内田 莉沙子/訳	福音館書店	1965	3歳～	19
てん	ピーターレイノルズ/著、谷川俊太郎/訳	あすなる書房	2004	幼児～小学校低学年	6
どうぞのいす	香山美子/著、柿本幸造/絵	ひさかたチャイルド	1981	3・4歳～	2
ねずみくんのチョコッキ	なかえよしを/著、上野紀子/絵	ポプラ社	1974	3～5歳	1
ねないこだれだ	せなけいこ/著	福音館書店	1969	1歳～	3
はじめてのおつかい	筒井 頼子/著、林 明子/絵	福音館書店	1977	3歳～	28
はらべこ あおむし	エリックカール/著、もりひさし/訳	偕成社	1976	4歳～	8
パンダ銭湯	tupera tupera/著	絵本館	2013	特定なし	20
ぶーちゃんとおにいちゃん	島田ゆか/著	白泉社	2004	子どもから大人まで	1
ふたりはともだち	アーノルドローベル/著、三木卓/訳	文化出版局	1972	小学校の教科書	23
ブローチ	内田也哉子/著、渡邊良重/絵	リトルモア	2004	特定なし	8
ぼくのニセモノをつくるには	ヨシタケシンスケ/著	ブロンズ新社	2014	特定なし	15
ぼちぼちいこか	マイク＝セイラー/著、ロバート＝グロスマン/絵、いまえ よしとも/訳	偕成社	1980	3歳～	1
マドレーヌのメルシーブック	ジョン・ペーメルマンス・マルシアーノ/著、江国香織/訳	BL出版	2005	特定なし	11
もこ もこもこ	谷川俊太郎/著、元永定正/絵	文研出版	1977	1歳～8歳	15
もったいないばあさん	真珠まりこ/著	講談社	2004	特定なし	13
りゆうがあります	ヨシタケシンスケ/著	PHP出版	2015	特定なし	31
りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ/著	ブロンズ新社	2013	特定なし	25
わすれられないおくりもの	スーザンバーレイ/著、小川仁央/訳	評論社	1986	小学3年生の教科書	17
わたしのワンピース	にしまきかやこ/著	こぐま社	1969	3歳～	4
わにわにのおふろ	小風 さち/著、山口 マオ/絵	福音館書店	2004	2歳～	13
急行「北極号」	C. V. オールズバーク/著、村上春樹/訳	あすなる書房	2003	7歳～	32
恐竜時代	ロバートサブダ/著、マシューラインハート/著、わくはじめ/訳	大日本絵画	2005	子どもから大人まで	11
三びきのやぎのがらがらどん	マーシャブラウン/絵、瀬田貞二/訳	福音館書店	1965	4歳～	23
世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ	ホセ・ムヒカ/著、さばよしみ/編、中川学/絵	汐文社	2014	小学校中学年から	10
生命の樹 チャールズダーウィンの生涯	ピーターシス/著、原田勝/訳	徳間書店	2005	特定なし	21
悲しい本	マイケルローゼン/著、クエンティンブレイク/絵、谷川俊太郎/訳	あかね書房	2004	小学校低学年以上向き	7
不思議の国のアリス とびだししけえほん	ルイスキャロル/原著、ロバートサブダ/著、わくはじめ/訳	大日本絵画	2004	特定なし	68
妖怪ウォッチようかいだいやかん ともだちだいやごう！	妖怪ウォッチ製著委員会/監修	小学館	2014	ひらがなを覚えてからの 幼児から	38
0さい～4さい こどもずかん どうぶつくだもの やさい のりものくるまむしはなからだいろ かず	よしだじゅんこ/絵、ダイブテルキ/英語監修	学研	2003	0～4歳	0
うしろにのるのだあれ	accototo / 著、ふくだとしお / 著、ふくだあきこ / 著	幻冬舎	2008	特定なし	0
きんぎょがにげた	五味太郎/著	福音館書店	1982	2歳～4歳	0
くつついた	三浦太郎/著	こぐま社	2005	0歳から3歳ごろまで	0
しりとりしましょ！	さいとうしのぶ/著	リーブル出版	2005	幼児小学校低学年～	0
だるまさんの	かがくいひろし/著	ブロンズ新社	2008	0歳の赤ちゃんから 大人まで	0
月人石	乾 千恵/書、谷川 俊太郎/文、川島 敏生/写真	福音館書店	2005	4歳～	0

